

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 66 回新潟癌治療研究会

日 時 平成 18 年 7 月 29 日 (土)  
 会 場 新潟東映ホテル 1 階  
 白鳥の間

## I. 一 般 演 題

## 1 口腔癌細胞に対するグリセロール単独投与効果；アポトーシス誘導について

桜井 賢\*、\*\*\*・岡田 康男\*\*  
 又賀 泉\*・片桐 正隆\*\*  
 日本歯科大学新潟生命歯学部口腔  
 外科学第 2 講座\*  
 同 病理学講座\*\*  
 県立中央病院歯科口腔外科\*\*\*

グリセロールは変異した p53 タンパク質の高次構造を元に戻すという化学シャペロン効果を有し、放射線と化学療法の感受性が増強され、さらに p53 タンパク質の機能が回復し、アポトーシスが誘導されると報告されている。一方、グリセロール単独効果に関する報告はない。そこで単独投与による抗腫瘍効果について *in vitro* で検討を行った。口腔癌細胞株 (SAS, HSC-3, Ca9-22), CDDP 耐性 SAS 株および正常歯肉線維芽細胞 Gin-1 を用いグリセロールで 48 時間処理したところ口腔癌細胞株, CDDP 耐性 SAS においてはグリセロールの濃度依存的に増殖および浸潤が有意に抑制された ( $p < 0.05$ ) ので、その機序, CDDP 耐性度の改善効果ならびに臨床的な併用効果についても報告する。

## 2 舌癌悪性度に関連するインテグリン遺伝子発現の定量的検討

黒川 亮・永田 昌毅・星名 秀行  
 藤田 一・小林 孝憲・大西 真\*\*  
 大山登喜男\*\*・栗田 浩\*\*\*  
 斎藤 力\*・新垣 晋\*・高木 律男  
 新潟大学大学院医歯学系顎顔面口腔外科学分野  
 同 医歯学系組織再建口腔外科学分野\*  
 長岡赤十字病院歯科口腔外科\*\*  
 信州大学医学部歯科口腔外科学講座\*\*\*

【目的】インテグリンは細胞外基質受容体であり、多様な細胞機能に参与する。私達は舌癌悪性度マーカーとしてのインテグリン遺伝子 (*ITG*) 群の可能性を検討した。

【対象と方法】69 症例の舌癌組織について *ITG* 遺伝子  $\alpha$  鎖 6 種と  $\beta$  鎖 5 種のリアルタイム PCR により発現定量した。*ITG* 発現レベルの標準化には House keeping gene, 細胞骨格, 細胞質内アンカータンパク, 細胞外基質分子の計 13 種を検討した。*ITG* ファミリー遺伝子の発現レベルと臨床データの関連を主成分分析, 多重ロジスティック回帰分析, Cox の比例ハザードモデルで解析した。

【結果と考察】多変量的解析から *ITGB* ( $x$ ), *ITGB* ( $y$ ) は遠隔転移や死亡に関連し, *ITGA* ( $z$ ), *ITGB* ( $y$ ) は頸部リンパ節転移に関連を示した。この結果は舌癌には頸部リンパ節転移性と遠隔転移性が独立した性質として存在し, *ITG* 遺伝子発現レベルがその判別に有用である可能性が示唆された。

## 3 口腔原発形質細胞腫の 1 例

辻内 実英・大竹 一平・佐藤 英明  
 田中 彰・又賀 泉\*・岡田 康男\*\*  
 片桐 正隆\*\*・石黒 卓朗\*\*\*  
 日本歯科大学新潟病院口腔外科  
 同 口腔外科学第 2 講座\*  
 同 病理学講座\*\*  
 県立がんセンター新潟病院内科\*\*\*

形質細胞腫は骨髄から発生する形質細胞由来の稀な腫瘍性病変である。今回、口腔内に原発した